

学校評価シート

＜学校経営方針の重点＞			
1 学力向上	2 人権尊重		
3 体力向上	4 特別支援教育		

項目	経営目標	本年度の重点	具体的な方策	評価	取組内容	分析結果	改善策	学校関係者評価記入欄		学校の見解と今後の方向性
								評価	コメント	
学力向上	「すすんで学びに向かう力」の育成	①授業の「めあて」と「学習のまとめ」の一致 ②「授業の振り返り」と「適用問題の活用による基礎基本の定着」 ③主体的対話的で深い学びの実現	ユニバーサルデザインに基づいた教室環境を整え、授業の「めあて」と「学習のまとめ」を一致させる。	A	☐ 授業で「ねらい」「問題」「課題」「自分の考え」「まとめ」といった表示を黒板に行い、学習の流れを分かりやすくしています。 ☐ 教室前方の掲示物を減らし、集中しやすい環境づくりをしています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 77.8%、「B 時々できた」22.2%で、肯定的回答 100%。	・より効果的な学習活動ができるように検討しながら継続する。	A	児童が学習に集中できる環境づくりをしている。	わかりやすい授業に向け、改善を継続する。
			児童の学力を客観的に分析し、「授業の振り返り」と「適用問題の活用による基礎基本の定着」をさせる。	B	☐ 「藤橋チャレンジ」の結果を分析し、子供に個人票を配布しています。子供は、個人票で自分の課題をつかんでいます。 ☐ 授業の終わりに「学習の振り返り」をして、「練習問題」に取り組み、基礎が身につくようにしています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 22.2%、「B 時々できた」77.8%で、肯定的回答 100%。	・基礎基本の理解と定着を図る活動に時間を必要としている。基礎基本の定着に合わせ、振り返りと練習の活動を充実させる。	B	すべての児童の基礎基本の定着を目指してほしい。	朝の基礎基本の定着の時間の活用を推進する。
			授業内に「児童同士」、「児童と教師」での対話的場面を設け、より深い気付きと理解に導く。	A	☐ 考えを広げたり深めたりする場面で「ペア活動」「グループ活動」等、子供同士で対話する場面を設けています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 50%、「B 時々できた」40%、「C あまりできなかった」10%。肯定的回答 90%。	・対話的な活動のもととなる基礎基本の学力を低学年から積み上げ、実態に合わせて対話的場面を設ける。	A	すべての児童に対話と活躍の機会があり、良い。	基礎学力の定着と対話的活動の充実で、学びの質の向上を図る。
			ICT 機器や電子ドリル等を活用し、「児童の基礎基本の学力」定着を図っている。	A	☐ 朝学習と月曜日と金曜日の放課後「ステップアップクラス」、授業の中で、基礎学力の定着を目指して「電子ドリル」を使い、個別最適な学習に取り組んでいます。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 55.6%、「B 時々できた」44.4%で、肯定的回答 100%。	・児童自身の課題意識と主体性を育み、より効果が高まるように検討しながら継続する。	A	昔とは比較できない程、学力向上に積極的である。	児童の主体性を育みながら、取組を継続する。
人権尊重	「すすんで生きる力」の育成	①人権尊重の理念と人権教育についての共通理解 ②児童一人一人が大切な存在として互いに尊重しあう ③いじめや差別のない望ましい人間関係を築く	児童に「丁寧な言葉」を使い、「気持ちのよい挨拶」の手本を示す。	A	☐ 児童の登校時と下校時、一日を通して、先生は「丁寧な言葉」と「気持ちのよい挨拶」の手本を示しています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 90%、「B 時々できた」10%で、肯定的回答 100%。	・挨拶に加えて一言添え、丁寧な言葉遣いで児童とかわることを継続する。	A	職員の姿が良いお手本となっている。	丁寧な言葉遣いと挨拶を、引き続き継続する。
			「クラス目標」と「児童たちの誕生日」等を掲示して思いやりの心や社会生活の基本的なルールを身につけさせる。	A	☐ 教室に、「クラス目標」と「子供たちの誕生日」等を掲示しています。子供たち一人一人を大切に、思いやりの心や社会生活の基本的なルールを育てています。	・「A クラス目標と誕生日を掲示した」が 70%で、児童の教室においての実施率は 100%。	・継続して児童一人一人を大切に、思いやりの心とルールを守る心の育成を継続する。	A	特別な日を大切にしてもらえ、児童が喜んでいる。	児童一人一人を大切に、継続して思いやりの心を育む。
			特別活動の「話し合い活動」と「集会活動」を充実させ、児童の意見を大切に取り扱い、一人一人に「役割を通して活躍」させ、「満足感と充実感」を味わわせる。	A	☐ 学級会で「話し合い活動」をして考えをまとめ、「集会活動」を行っています。子供の意見を大切に扱って、一人一人に「役割を通して活躍」させ、「満足感と充実感」を味わわせています。 ☐ 「給食」や「掃除」などの当番活動と、クラスごとに子供たちが考えた係活動を行っています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 50%、「B 時々できた」50%で、肯定的回答 100%。	・取組開始から2年が経過。育った力の上に、取組の充実と継続が必要である。児童一人一人に居場所と役割、満足感を育成する。	A	意見が言え、役割と居場所があることはとても大切。	特別活動を通し、一人一人に望ましい人間関係作りを継続する。
体力向上	「すすんで元く力」の育成	①身体を動かす楽しさと心地よさを味わわせる ②体力の向上を図る	体育の時間や休み時間を通し、体を動かす楽しさや、心地よさを味わわせる指導を行う。	A	☐ 体育の時間に様々な運動を子供たちに経験させ、体を動かす楽しさと心地よさを味わわせています。 ☐ 休み時間に、先生も子供たちと一緒に遊んで、運動の楽しさと心地よさを味わわせています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 70%、「B 時々できた」20%、「C あまりできなかった」が 10%。	・専科担当教員を除き、体育と休み時間、放課後を通して運動の楽しさを味わわせている。この取組を継続する。	A	児童は職員と運動できることを喜んでいる。	児童の運動する気持ち良さと心身の健康維持に努める。
			「体力テスト」の結果分析を踏まえ、体力の向上を図る。	B	☐ 体育の時間、「体力テスト」の結果分析を踏まえて、子供の体力を向上させる取り組みをしています。（走る、跳ぶ、投げる運動等）	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 33.3%、「B 時々できた」44.4%、「C あまりできなかった」が 11.1%、「D できなかった」が 11.1%。	・体力テストに見られる課題を把握し、改善につながる運動を体育の準備運動に取り入れる。走る、跳ぶ、投げる要素を取り入れる。	B	体力は生活の基盤である。学校は、取組を継続している。	課題に応じた取組を検討し、児童の健康増進を継続する。
特別支援教育	特別支援教育の推進	①通常の学級における特別支援教育を充実 ②特別支援教室「ふじのみ」と在籍学級との連携、情報共有による対応	授業のねらいを明確にして、授業の展開を計画し、「場面ごとに必要な支援」を準備して指導に臨む。	B	☐ 授業では「ねらい」を明確にしています。 ☐ 授業では、子供のつまずきに備えて、「必要な支援」を準備して指導をしています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 40%、「B 時々できた」60%。	・授業のねらいを明らかにして指導をし、予想されるつまずきに対して支援方法を検討する。	B	取組を継続してほしい。	ねらいを明確にし、支援を行いながら指導を継続する。
			配慮を必要とする児童について、「特別支援コーディネーター」と「スクールカウンセラー」、「巡回心理士」、「支援員」と情報共有して対応を検討する。	A	☐ 集団での生活や学習に困難を感じる子供のために、「特別支援コーディネーター」と「スクールカウンセラー」、「巡回心理士」、「支援員」と情報共有しています。 ☐ 検討した対応を、一日の生活と授業の中で行っています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 60%、「B 時々できた」40%で、肯定的回答 100%。	・各担当者と情報共有し、対応を継続する。保護者との情報共有を心掛け、適切な支援に向けて粘り強く理解を促す。	A	児童が安心して登校できるよう、取組を継続して欲しい。	専門スタッフの活用と情報共有で、引き続き児童を支えていく。

組織・人材育成		③ 各種人材の活用促進	学びと心の育成事業による「学力定着支援員」、「校内別室指導支援員」、「エデュケーションアシスタント」、「スクールカウンセラー」を活用して指導する。	A	☐ 学びと心の育成事業による「学力定着支援員」が、つまずきがちな子供の学習を支援しています。 ☐ 「校内別室指導支援員」が、教室で学習できない子供を、別の部屋で学習の支援をしています。 ☐ 「エデュケーション・アシスタント」が、1、2、3年の副担任として、学級の支援をしています。 ☐ 金曜日、「スクールカウンセラー」が、子供と保護者の個別の相談にのっています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 66.7 %、「B 時々できた」33.3%で、肯定的回答 100%。	・「学力定着支援員」による学習支援、「校内別室指導支援員」による個別支援、「エデュケーション・アシスタント」による低学年の支援、「スクールカウンセラー」による面接を継続する。	A	それぞれの専門スタッフをうまく活用している。	各種人材の活用を継続し、児童一人一人が安心して成長しているよう、取組を継続する。
			通常学級で配慮を必要とする児童への支援を行い、保護者と共通理解を図っている。	A	☐ 通常学級の中で生活したり学習したりすることにしんどさを感じている子供たちに支援を行い、様子を保護者に伝えて、子供の状態を理解してもらえるようにしています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 60%、「B 時々できた」40%で、肯定的回答 100%。	・保護者が児童の様子を理解して、適切な支援を受けられるよう、粘り強い取り組みを継続する。	A	保護者が気づくべきことに対応してもらえありがたい。	児童のしんどさを家庭と共有しながら支援を継続する。
	・組織的対応の向上 ・主体的に課題解決にあたる人づくり	・組織的な対応による課題解決の促進 ・若手、中堅教員の育成 ・校内研修、OJTを通した指導力の向上	各種課題に対し、情報を共有し、迅速に組織的対応をし、丁寧な解決を図る。	A	☐ 子供同士のトラブルに対して、朝や中休み、放課後に教員同士で情報を共有し、分担して聞き取りや指導を行っています。指導した結果は、保護者にも伝え、その後の様子も見て、ていねいに解決しています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 80%、「B 時々できた」20%で、肯定的回答 100%。	・トラブルはすぐに情報共有して組織対応し、保護者に連絡することを継続する。	A	迅速な対応とフォローを継続してほしい。	迅速な共有と組織的対応を引き続き行う。
			校務分掌の仕事内容を明確にし、計画的に実施する。また、次期担当者への引継ぎや若手教員の育成を意識して校務に努める。	A	☐ 「教務部」と「生活指導部」、「特別活動部」、「体育部」、「経営支援部」、「ICT 教育推進部」等の役割と仕事を明らかにしています。取組は事前に検討してから実施し、終わったら改善点を盛り込んで次の計画を立案し、次回に引き継いでいます。 ☐ 若手教員を支えながら仕事を進め、実践を通して若手教員を育てています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 70%、「B 時々できた」30%で、肯定的回答 100%。	・各担当の役割を明確にし、取組を随時点検し、次回に向けた改善を行う。この「PDCA サイクル」を通して若手職員の育成を継続する。	A	職員のやりがいと成長を大切に、育成を続けてほしい。	効率化とPDCAサイクルを通し、やりがいをしながら成長できるように心がける。
			日々の実践や校内研修、外部研修に積極的に参加し指導力を向上させる。学んだ知識や技術を OJT 等で校内に還元し、学校全体の指導力向上を図る。	B	☐ 日々、学年や近くの教員同士で相談して授業の質を高め、指導力を教員同士で向上させています。 ☐ 校内研究で、全教員で研究を深め、指導力を高めて実践しています。 ☐ 東京都の「専門性向上研修」と「指導教諭の模範授業」に参加し、指導力を高めています。 ☐ OJT を行い、効果的な知識と技術を全教員で共有し、学校全体の指導力を高めています。	・「A ほとんどの場面で取り組めた」が 40%、「B 時々できた」60%で、肯定的回答 100%。	・年間を通して OJT と校内研究、職員同士での指導力向上を図っている。長期休業期間を活用した「専門性向上研修」等の受講を推奨する。	B	職員同士が相談しあえる環境はとも良い。継続してほしい。	外部の先進的な知識や技術を吸収して職員同士で共有し、指導力向上を継続する。